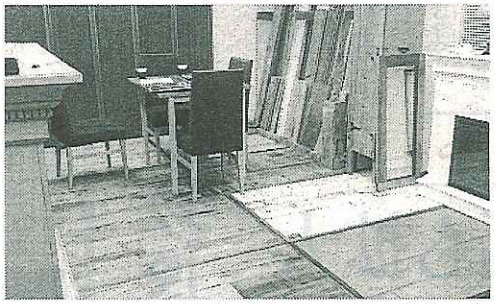
# 古材ショールームを目白に移転

## デザイナーズ店舗への採用進む

### 小山製材木材

文教地区として名高い東京都豊島区目白。皇室との縁が深い学習院や川村学園などの名門校が立ち並び、学生達が街に賑わいを与える。駅前の喧騒から一歩離れると、閑静な住宅街が続き、時折、おしゃれなレストランや雑貨屋などが顔を見せる。この地にこのほど、古材（ビンテージウッド）のショールームがオープンした。手掛けたのは小山製材木材（栃木県小山市）の坪野谷修一専務。大手建販商社を退職後、曽祖父が創業した小山製材木材に入社。同氏で4代目となる。



ショールームには古材フローリングが敷かれ、サンプルが数多く並ぶ

実はこのショールーム、以前はファッションブランドが軒を連ねる東京・表参道で展開されていたものだ。表参道の店舗が手狭になり、移転を考えていたところ、友人から共同店舗の誘いがあり、目白への移転を決断したという。最寄り駅の目白駅からは、徒歩5分の近さだ。「店舗デザイナーが多い表参道から移るのには少々不安があったが、目白は目白なりのメリットもあると感じている。目白には一般富裕層も多く、これらの方々への商品提案も行ってみたい」（坪野谷専務）。

ショールームとその運営会社「リバープレース」が入居する施設には、友人が運営の介護施設や託児所など数社が入っており、会議室や多目的スペースを共同利用するという。

ショールームには米加産針葉樹や広葉樹の古材梁や、ダグラスファーやオークウッドのフローリングなどが展示されている。

販路は95%が店舗向け、残りの5%が一般住宅向けだ。売れ筋のフローリング材は、70%が本来のフローリングとして使用され、30%は壁パネルとして、店舗の壁面に表情を与える。

ターゲットは「こだわり」を持つ、デザイナーや店舗オーナー。カフェやレストラン、バー、ファッション店舗、美容室での採用が進んでいる。繁忙期は春先と秋口。「今年は秋需が長く、欠品を起すほどだった。ビンテージウッドの認知度の高まりも感じる。地道な営業が実を結び出したのかもしれない。うれしい悲鳴だ」（同）。

坪野谷専務は本業のパレット製造の傍ら、04年から古材事業をスタートさせた。「末永く愛してもらる商品、お客様に本当に喜んでもらえる商品を売りたい。古材が好きで価値を見いだしてくれる人と、古材との仲介役になれるのがうれしい」との思いが、この事業の根底にあるようだ。

産地のアメリカやカナダには年4～5回のペースで訪れる。現地代理人への検品やグレーディングの指導には特に気を配る。

フローリングのT&G加工や構造材の再割は、現地の協力製材工場で行う。古材には古釘が埋まっており、日本の製材機では、鋸が釘に負けてしまうという。